

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『日本一あたたかい家庭を』を念頭におき、利用者本位の理念をつくりあげている。新利用者の入居時、新人職員の入職時に説明を行っている。	○ 利用者にも分かりやすいように文字の大きさを拡大して、見やすい所3ヶ所に掲示している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議や朝の申し送り時などで運営理念に触れるような話し合いを行い、理念を共有し、常に念頭におきながら業務についており、全職員が把握出来るようにしている。	○ 理念を念頭に置き、日々の生活の中で実践していくように今後も努めたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関入口やホールに理念を掲示し、面会時や見学時に家族や来客などに説明している。	○ 民生委員、家族、地域の方々に運営推進会議時に理解できるようにしている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方と話したり、花、野菜などを頂いたり、散歩時なども声をかけていただいたり、保育園児がホームに散歩時立ち寄ってもらえ利用者が大変喜ばれている。	○ 今後とも積極的に地域の方々と交流していきたい。常時、散歩時には地域の方々と挨拶をして顔見知りになるよう取り組んでいる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々や保育園児との交流はあるが、自治会などの出席は行っていない。	○ 地域に働きかけて交流の機会を持つようにしたい。小学生の体験学習など訪問時には交流も行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣を散歩時に地域の方に挨拶がてら話をしたりして、役立つことがあれば支援に取り組むよう努めている。同地区で、認知症キャラバンメイトとして関係職員が取り組み、家族、職員、地区の方々を対象とし、認知症サポーター研修を開催し周知してもらった。	○	今後も全職員でミーティング等で話し合い取り組み、参加を試みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が調査報告書を回覧し、会議などを通して外部評価の意義や評価に対するケアや環境の見直しを行い、より良いサービスの提供につながる様取り組んでいる。	○	個々のサービス・家族・地域との関わりの見直し等を再確認している。評価後、再度ミーティング等にて話し合い改善に努めていく。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動を中心に報告したり、行事への参加、防災訓練の見学をお願いしたり等の当ホームの理解を中心に行う。利用者の写真を掲示したり、DVDにて日頃の様子を報告する。又、同地区の事業所の職員が運営推進会議に、お互いに出席し、情報交換を行っている。	○	当ホームの運営についていただいた意見を参考に、具体化を図りサービス向上に取り組んでいく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	キャラバンメイト2名を中心に今年度は認知症サポーター養成講座を開催するに当り、同地区の事業所や民生委員の方と交流を深め取り組んだ。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、研修資料を全職員が目を通すなどして学ぶ機会を設け、制度があることを全職員に周知している。	○	成年後見制度に関するパンフレット等を準備し、いつでも家族に渡せるようにしている。その時説明できるように勉強していく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態に併せて、現在のケアが虐待につながっていないか等の検討を職員会議で行い、常に意識を持つ。また、外部研修等を通して虐待や拘束に対する理解を深める。	○	職員間の連携を図り、利用者の方々が安心して生活できるように取り組む。高齢者虐待防止関連法について研修に参加資料を回覧し、ミーティングにて報告し全職員で話し合う機会を設けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、書類で確認しながら時間をかけてしっかり説明を行い、ご理解の上で署名、捺印を頂いている。	○	入居前に気軽に施設見学をしてもらい、十分な説明を行い理解、納得を図り契約を行っている。退所時には、ご家族、利用者の暮らしに協力機関との連携が図れ安心して頂けるように支援している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	宮崎市の介護相談員が月1回の訪問時に利用者とはゆっくり話したり、相談にのってもらえる時間がある。	○	日々生活の中での満足度、心配等第三者を介して聞いた事実を受け止めケアに努めている。利用者の意見、不満等、訴えについては記録に残し、その都度職員に申し送り報告している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話などで体調などについても逐一報告を行い、個々に合わせた対応をしている。利用料の支払時には、預かり金のチェックもしていただく。	○	預かり金残高確認(サインまたは押印)を頂き、金銭管理には、しっかりした信頼関係を気付くように今後も取り組む。新入職員は家族面会時や、玄関入口写真付書面にて紹介をしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口として管理者が担当になっており、玄関入り口にご意見箱を設置している。	○	面会時や電話で気軽に話せる雰囲気作りに努め、状態を報告するなど信頼関係作りに更に取り組む姿勢を大事にする。意見、不満等あった時は記録に残し職員全体に申し送り報告している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送り時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制は決まっているが、随時利用者の状況にあわせた組み替えを行っている。また個々の職員に負担がいかないように話し合い調整している。	○	各行事、レクリエーション等には事前より職員が対応出来るよう勤務を調整し努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しく勤務する職員においては、なるべく触れ合う機会を多く持つようにして、早く馴染みとなるようにしている。	○	利用者の情報を全職員で周知させ対応できるようにしている。入職当初は介護技術も含め業務全般をマンツーマンで教えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修へ積極的に参加している。また自主研修の案内も随時行い、参加を呼びかけている。</p>	○	<p>順番で職員が外部研修に参加し研修での復命書作成、ミーティング時に報告発表行い、取り入れるよう努めている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修参加などにより、交流する機会を持ち、情報交換する等ネットワークができています。</p>	○	<p>順番で職員が研修会に参加し情報交換を行い、ミーティングにて報告し取り組みをしている。視野を広げサービスの質の向上させていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間でお互いのストレスを軽減できるような言葉かけが配慮できている。休み時間には少しでも心身ともに休めるよう簡易ベッドで休んで貰う。</p>	○	<p>勤務表はできるだけ希望に沿うように作成している。又、連休を組み入れリフレッシュ出来る様努力している。職員のストレス発生時は相談して応じている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修への派遣や資格取得のための勉強会など、積極的に取り組んでいる。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所に至るまでに面談などを行い、本人の要望、不安なことを聞く機会を作り、努めている。</p>	○	<p>訪問調査を増やしたり、ホーム見学を多くしてもらおう働きかけていく。入所後、本人から話を聞ける雰囲気を作り機会を持ちコミュニケーションを図っている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所に至るまでに面談などを行い、ご家族の要望、不安なことを聞き、機会を作り努めている。</p>	○	<p>入所後も家族と面談行い、意向、要望、訴え等、随時思いを聴き受けとめるよう努めている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集や本人、家族との面談時に意向や要望に応じていくことや他のサービス利用の説明にも努めている。アセスメント行い必要としている支援を介護計画書に反映して実行している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況によって、家族と協力しながら時間をかけて、馴れていただけるよう対応する。家族より馴染みの品の持ち込みも工夫していく。	○	入所2週間の暫定介護計画書を作成し、その後ミーティング、ケアカンファを行い、本人、家族、全職員の意見を聞き、介護計画書を新たに作成している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや食器洗い等、利用者からアドバイスも頂いたりしている。おせち料理の作り方も教えていただいている。	○	本人のできる力を大切にして生き生きと輝いて生活して貰いたい。各個人が楽しんで取り組めるよう、調理、園芸、洗濯物干し、たたみ等、職員と一緒に取り組み学んだり支援している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望に沿って、外出希望や面会をお願いし、面会時間も夜間を除き自由になっている。年1回の誕生日を家族と共にホームで昼食会を過ごさせている事で利用者、家族、職員とのコミュニケーションが図れている。	○	毎月の誕生会の行事には、ご家族を招待し一緒に祝って頂く。この種の行事をもっと計画していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報提供や会議を行い、本人と家族の思いを双方の対応に活かせるように努力し、良い関係が継続できるよう心がける。	○	手紙や電話等でも交流出来る様支援している。面会時には居室にてゆっくりと過ごせるよう配慮に努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人とのかかわりを大切にし、なじみの品物を居室に持参されるなどご家族には大変協力していただいている。又、家族の協力を得て墓参りに行かれたり、線香あげに自宅に戻られる方もおられる。	○	遠くから訪ねて来られる友人の方達や知人、家族には年2回(暑中見舞い、賀状)の便りを出し、支援に努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂テーブル配置などに気を配り、利用者同士ができることをできない方にしてあげたり、支えあう姿勢を大切にしている。	○	日中はホールや居間で一緒に過ごす事が多く、対談を交えて職員も一緒に支え合えるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	介護計画を基に全職員が一人一人の思いや希望に添い実施し、各担当者も把握している。月1回のミーティングにてモニタリング評価行い検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	新入居者の御家族の方にもシートを記入してもらい、生活歴等把握していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	月1回、モニタリング評価行い、各入居者一人一人の現状を把握し支援をしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	本人又は、家族の方を交え、管理者、計画作成担当者等にて面談行い、意見を反映し介護計画を作成努めている。月1回のミーティングにて報告する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	ご家族と面会時、意見交換したり現状の変化があった場合はその都度対応している。又、申請時期等、状態変化時にも事前にカンファレンスを開催しミーティングにて共有して3ヶ月の見直しを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービスプランに組み入れて介護記録をとり、全職員が情報を共有する。センター方式シートを利用し日々の様子を全職員で記入している。計画作成者も支援経過記録二期みゆ愛し総合的に情報共有し、介護計画の見直しを行っている。	○ 介護計画書を基にチェック表に記入し実施している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の介護老人保健施設や併設のグループホームの合同行事にも多く参加し、外出の機会を多く支援している。	○ 各種行事には、たくさんの家族が参加される。行事に合わせて遠方よりの帰省、日程を調整される家族もおられる。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員の訪問もあり、交流があり、利用者の方も来所を楽しみにされている。	○ 月に2回の運営推進会議にて開催し、地域の方達と交流を図っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院受診の際、介護タクシーを利用される方もおられる。訪問歯科、訪問美容師等も受け入れている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などには参加してもらっているが、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントなどについて、本人の意向がまだ無いため、特に行っていない。	○ 地域包括支援センターの方々や地域の施設のケアマネジャーとの研修に参加し情報収集・交換している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族を通じて連携を図っているが、グループホームからは情報提供をこまめに行っている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症が進行した場合はまずご家族と相談を行い日常の状態観察を情報提供し、受診時に報告し、診察、治療を受けられるよう支援している。	○	緊急な病院受診後も主治医より電話連絡あり、状態や情報を報告され連携が取れている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の老人保健施設の看護職員の方に相談したり、来所してもらったりして、利用者の健康・医療に指導・助言をもらい、支援してもらっている。又、利用者をよく知る地域の在宅介護支援センターの看護師の方との交流もあり相談にのってもらう。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は、全職員が見舞いを行い、利用者に安心感を持たせるよう心がけている。入院中、退院前にはご家族を交え、病院関係者にその都度情報交換し、相談に努め、連携している。	○	入院中は訪問を行い情報把握に努め病院関係者より説明を聞いたり、リハビリを見学させてもらったり、情報交換を行っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	従来から医療が必要になったり、当ホームで適切な介護が必要な場合は、経過措置として適切な介護ができる施設への移動を支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族を交え相談を行い、今後の状態変化に備え、主治医にも報告を行い連携を行っている。緊急時の対応マニュアルの作成。	○	緊急時の為の普通・上級の救命講習等職員が積極的に参加している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前にケア関係者間で情報交換を行い、移動時に利用者のADLや認知状況、グループホームでのケア内容などの情報を提供している。	○	医療・基本情報等情報提供出来るように作成している。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人に合わせた言葉かけや分かりやすい説明、対応を行っている。記録物は人目につかない事務室に保管されている。	○ 今後もプライバシー確保の徹底に努める。また個人情報も外部に触れないよう保管する。日常から言葉使い等配慮に心掛け努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の訴えを十分に聞くように心がけている。	○ 介護計画の意向、希望を基に支援を行い努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	音楽療法に参加したくない時など、無理強いしないよう本人のペースに合わせた支援をしている。食事は全員揃って食べて頂く様になっているが本人の体調、希望によって遅らせる。	○ 一人一人のペースを優先しながら食事時間、就寝時間等その日によって遅くしたりして対応を行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回のカットや毛染をされ、大変若くなったと喜ばれる方もおられる。訪問美容師の来所を楽しみにされており、髪長さ、スタイルは本人の希望通りにしてもらえる。	○ 毎朝の化粧や身だしなみを行いリフレッシュしてもらうよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り買い物、調理を一緒に行っている。また献立には利用者の好みを反映し、共に配膳、下膳、後片付けや洗い物もしている。	○ 本人の得意の餃子作りや又、季節に合わせて保存食や常備菜を利用者や職員と一緒に準備を行い、作る事により楽しんでいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事の好みについては、情報収集した好みの物を本人の状態に合わせ、日常的に楽しめるように努めている。現在はお酒や、タバコを希望されている利用者はいない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的には時間を見てトイレ誘導を行っているが、夜間帯は紙パンツやパットを使用される方もおられる。掻痒感のある方は紙パンツから綿パンツに変更し少しでも通気性を良くし気持ちよく排泄出来る様日中は取り組んでいる。	○	定時にトイレの誘導を行い、チェック表を基に職員が一人一人の排泄パターンを把握して取り組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日沸かし、毎日入浴が基本である。また、湯加減、入浴時間帯など本人の希望に合わせて支援している。毎日の入浴の順番を変え1人1人不満のない様実施している。	○	入浴できない時は、清拭、足浴、ドライシャンプー等で対応、清潔を保つようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩やリハビリ体操などを行っているが、夜間不眠がある方もおられるためホットミルクを差し上げ話し相手になる等、利用者の状態把握に努め、少しでも良眠できるよう支援している。	○	両下肢浮腫の目立つ方や一人一人の身体の状態を観て、午睡を促し日中も休息が出来るように支援をしている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる範囲で洗濯物干しやたたみ、ホーム内の花壇の花植え、草取り、調理、盛り付けなどしていただいている。又、近隣の散歩等も時間を決めず行きたい時一緒に付添い気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、ご家族の許可の下、利用者本人にしていただいている。近くの店で買い物時には自分の財布から支払われる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のペースでレクリエーション日を設定し、外出の機会を設けている。希望に合わせて個別での外出も行っている。	○	希望により近隣を散歩したり戸外に出掛けられるよう支援をしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	できるだけ希望に沿って外出支援をレクリエーション日を利用して設定したい。家族とも協力して機会を作りたい。	○	買い物、自由に週2回の外出の機会を作り実施している方もいる。家族の支援で外出や外泊等協力を得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節ごとに葉書を職員支援の下作成され、家族に大変喜ばれている。	○	家族からの返事を利用者自身も喜んで葉書を大切にされるため、今後も取り組みたい。家族からの電話がある事で落ち着かれる方もおられる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定されていない。家族や友人の方と食堂ホールや居室でゆっくりと一緒にお茶を飲みながら過ごされている。	○	利用者の方がとても楽しみにされている為もっと面会回数を増やして頂ける様働きかける。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に行わないという認識を全職員が持っている。また転倒リスクのある方については、居室に赤外線センサーを設置し、転倒防止を行うと共に、身体拘束につながらないように取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵をかけていない。無断外出の察知は職員の方で心がけており、一緒に行動し散歩する等して自由に過ごしていただくので、自由、解放感がある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、特に見守り、所在確認を職員同士で声かけしながら、利用者が気遣いされない程度に配慮して行う。	○	常時、見守りが出来る所で職員も作業をしたりして、安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品によっては手の届きにくい場所へ保管したり、洗剤等はカーテンで目隠しを行ったりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練や勉強会をして取り組んでいる。事故報告書の作成でミーティング、申し送り時に報告し、再発防止に取り組んでいる。	○	勉強会や訓練、研修を通して事故防止の知識を学んでいる。又、誤薬のない様薬の仕分け、服薬時は二重三重の確認行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生法については、消防署より来所いただき勉強会を実施。急変時に備え諸症状のマニュアルを作成している。又、AED使用の救命処置研修や搬送方法等の勉強会にも参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回定期的に実施し、自営消防組織も確立し、毎日職員による火災予防自主検査を行い、意識を高めている。	○	防災訓練後は訓練レポートを作成し、防災時の電話連絡網にて緊急連絡の連携を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況報告を家族に常時行っている。職員会議や申し送り時に対応策について話し合う。	○	利用者の現在の状況を家族に分かってもらい、発生時には家族に連絡し、病院受診を依頼している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康管理を行い、体調変化時は口頭や申し送り日誌で全職員へ情報共有し、場合によっては病院受診の依頼を家族にする。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を確認しながら、意思の指示通りに確実に服薬を行っている。症状の変化時は、医師へ連絡を取り指示を仰ぐ場合もある。処方変更時、主治医の指示は職員の周知徹底を図る為、申し送りノートにて伝達する。	○	薬説明書のコピーを日誌に綴じ、確認を随時行なう。薬の副作用、目的を調べ明確に理解出来る様にしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	リハビリ体操を行ったり、牛乳、ヨーグルト、野菜ジュースや繊維物の多い食品など、個々に合わせて摂っていただき、水分補給を十分に行い、個々にあった排泄管理を実施している。日中散歩等を行ったり、排泄時腹圧マッサージを行っている。	○	排便確認の難しい利用者は、職員が意識を持ってトイレの後確認する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声かけし、歯磨きを実施している。介助が必要な方のみスポンジブラシを使用して丁寧に仕上げる等職員が支援するも、なるべく利用者自身で口腔ケアをしていただく。又、口腔ケアの重要性については、研修会に参加し、報告を行った。	○	訪問歯科衛生士より口腔状態等、支援してもらう。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は、こまめにチェックしている。食事の量が減っておられる利用者には、ゼリーやフルーツで補足していただくなど、一人ひとりに合わせて工夫している。	○	同法人内の栄養士に定期的に栄養バランスやカロリーについて助言をしてもらっている。センター方式のシート活用で1日の水分量チェックが出来、支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、それに沿って対処している。除菌の日を週2回設けて、細かい部分まで除菌している。利用者、職員共、季節性や新型インフルエンザの予防接種をしている。消毒液、マスクも常備し、お茶でのうがいも常時行っている。	○	外部からの感染もあるので、流行時は外出を控える等接触の機会を少なくしていく。また職員も更に手洗い、うがいを励行する。室内の温度、湿度も細めにチェックしていく。インフルエンザ流行時は職員が出勤時に体温を測り体調管理に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は長時間保管せず、1日おきに買い物に出かけ、できるだけ新鮮なうちに調理を行う。調理用具も殺菌し、乾燥に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲に木や花を植えている。また一面にはねぎ、パセリも植え、料理に使用している。家族が持参された花を利用者が庭に植えられる。	○	鍵をかけないので、家族の方も自由に出入りされる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と一緒に台所で調理することもある。四季を感じてもらえる食材を多く使っている。季節感の飾りなどを利用者と共に作成し、室内に飾っている。散歩時に持ち帰られた花を食堂テーブルに飾り、楽しまれる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ソファや食堂テーブル、ホール内の小テーブルに各々気の合う同士がコーヒーを楽しまれたり、新聞を読んだり、自由に過ごされる。又、ホール、ソファでは膝掛けを共用されたり、日向ぼっこが出来、癒しの空間になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	仏壇、ソファ、思い出の写真など、なじみのものを持ち込まれ、安心して過ごされるようになっている。	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	毎朝掃除の時間に必ず換気を行っている。室温調整は、利用者に合わせて行い、温度調整は、温度計、湿度計を確認して行う。	○ 冬場は加湿器を使用、定期的にエアコンのフィルターを掃除行い、換気を十分にしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	バリアフリーであり、手すりが要所に設置されている。浴室には滑り止めマットを使用している。	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	トイレもドアと入口に分かりやすく表示している。利用者が失敗しても自尊心を傷つけないよう、職員が言動に気を付け、持てる力が発揮できるようにしている。	○ 利用者個々ができる事とできない事をしっかりとらえ、統一したケアをするように努めている。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	併設しているグループホームとの共用の中庭には、芝生があり、ベンチを置き散歩時など、くつろぐスペースとして確保している。時々芝生上でテーブルや椅子を並べ、お茶や食事を楽しむ。	○ 今後も共に歌を唄う等、中庭で出来る様な活動を多く行っていきたい。玄関先もスロープがある為、車イスでも対応出来る。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 結婚退職した職員が子供を連れて気軽に遊びに来れるような温かい雰囲気があり、利用者の方々も大変喜ばれる。
- 併設のグループホームや同法人の老人保健施設と合同行事があり、家族、利用者共に多く参加していただき、楽しめる。
- 利用者の方々の笑顔が多く、とても活動的であり、月1回のレクリエーションである外出は、職員と共にとっても楽しめる。
- 利用者職員と一緒に料理を作ったり、除草作業をしたり、共に助け合い支え合う信頼関係がある。
- 月1回のご家族が催されるお茶会では、利用者、職員共、心が癒され、大変落ち着く場を提供して頂いている。